

データサイエンス共同利用基盤施設
令和2年度 第1回運営会議 議事概要

日 時：令和2年7月2日（木）10:00～12:05

場 所：ウェブ会議（zoom を利用）

出席者：

【外部委員】近藤委員、諏訪委員、高橋委員、照井委員、中井委員、堀委員、三好委員、
矢嶋委員、横山詔一委員、横山雅之委員

【内部委員】藤山委員、小原委員、前田委員、北本委員、野口委員、野水委員

【陪席】 荒木特任教授、平野企画連携課長、橋本企画連携課副課長、
昨間 DS 推進係長、遠藤 DS 推進係員

議 事：

議事に先立ち、昨間 DS 推進係長から、定足数を満たしていることから本会議が成立することが報告された。

次に、各委員及び陪席者の自己紹介を行い、藤山施設長から副議長に堀委員の指名があり、了解された。

続いて、藤山施設長から、施設の HP に基づき DS 施設の設立経緯、実施事業等について説明があった。

審議事項

1. 前回議事要旨確認

修正意見等がある場合は会議終了までに申し出ることとし、特段の意見はなかったため、案のとおり確定した。

2. 2020 年度人事について（客員）

前田委員から、資料 2-1・2-2（回収資料）に基づき、客員准教授の称号付与について説明があり、審議の結果承認された。

3. 2020 年度公募型共同研究の募集結果について

野水委員から、資料 3-1～3-4 に基づき、2020 年度公募型共同研究の審査方針、採否案および予算額案（前年度と同様）、また、それらに基づく採点結果について説明があった。また、藤山施設長から、DS 施設の公募型課題に対する考え方は特定の研究への資金援助ではなくコミュニティへの支援であることから、分野の裾野を広げるという目的でこれまで幅広く採択してきた旨、説明があった。続いて、以下の意見交換を行った。

・採点の結果申請額に対して減額となった場合、それに合わせて研究計画の変更等を行っているのか。

→金額変更となった場合、申請者へ通知し予算額の組み直しを依頼しており、計画変更が

発生するかについても確認している。また、各課題の受入先は各センターであるため、減額分をセンターの運営費で補う等の対応をすることもある。

- ・各センターの受入件数の割合はどのようになっているか。受入センターの許容範囲内か。
- 受入態勢については事前にセンター長と相談し調整をしている。また、不採択となった課題であっても、センターの判断でセンターの経費で支援することもできる。
- ・データサイエンス分野外から新規で申請し不採択となった課題に対して、スタートアップとして1年程度様子を見た後に継続審査を行う等、申請の敷居を低くすることも検討してはどうか。
- 2回目の公募も予定しているため、今回不採択となった課題についてはセンター側と十分な打合せのうえ再申請を促す等、フォローアップをセンターに任せたい。
- ・不採択の課題について、研究費は出なくとも共同研究として行いたいかなど、申請者へ確認等はしているのか。
- フォローアップは行っていきたい。

審議の結果、申請36件の内33件を採択することが承認された。

報告事項

4. センターの紹介

ライフサイエンス統合データベースセンター、社会データ構造化センター、人文学オープンデータ共同利用センター、ゲノムデータ解析支援センターのセンター長から、各センターの現状および今期の将来計画について説明があり、以下の意見交換を行った。

(注：残る2センターはセンター長欠席のため次回の報告とする)

○ライフサイエンス統合データベースセンター：

- ・COVID-19に関するデータの集約、解析等を行う予定はあるか。
- ウイルスのデータはすでに多く提供されているので、これを利用するアプリを提供している。また、機構内でCOVID-19対応研究課題の公募があり、当センターの課題も2件採択されている。

○社会データ構造化センター：

- ・センターの実施する3つの事業間の連携、コミュニケーションが必要かと思うが、どのように考えるか。
- 公的マイクロデータ、特に官公庁系のデータは管理の縛りも厳しく、現状として民間データとの結合は具体的には進められていない。ただし、データの結合、名寄せについては各事業で必要なことと考えており、データの機密性を担保した上での仕組みづくりを進める必要がある。
- ・データの結合、名寄せの技術面では、DBCLSで先行事例などがあるのではないかな。センター間の情報交換を進めてはどうか。
- 扱うデータに倫理性が求められる点は当センターの特徴ではあるが、このような点に対応するためにも、DBCLS等他センターの先行事例を知り、情報交換を行っていきたい。

○ゲノムデータ解析支援センター：

- ・新規で解析依頼したい場合、どのような手続きが必要か。解析費用はいくらか。

→センターの HP またはメールで受付をしており、面談を行ったうえで対応の可否を判断する。解析費用は無料としている。また、研究コーディネーターが学会で事業の説明を行い、解析の受付等も行っている。

5. その他

藤山施設長から、機構 web サイトに掲載されている外部評価報告書に基づき、外部評価結果について説明があった。今後第 4 期中期目標期間に向けての検討を行うにあたり、外部委員の先生方にはご意見をいただきたい旨、依頼があった。

フリーディスカッションとして以下の意見交換を行った。

- ・ゲノム解析支援は現在無料で行っているとのことだが、使用料金（外部資金）を得ることと解析の研究員を雇う等の可能性も検討してはどうか。

→利用者側では解析には料金がかかるものという認識を持っているため課金も可能かもしれないが、DS 施設は運営費交付金の機能強化経費により運営されているので、文科省予算と使用料徴収の二重取りにならないかという懸念がある。また、センターとしての受入容量も考慮し検討する必要がある。

- ・3 年前と比較して、各センターとも素晴らしい成果を上げている。今後は現在各センターの持っている情報、技術を共有し発展させていくことを期待する。

以上

資 料：

- 0－1 データサイエンス共同利用基盤施設運営会議委員名簿・・・・・・・・・・
- 0－2 情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設運営会議規程・
- 1－1 令和元年度第 5 回運営会議議事概要（案）・・・・・・・・・・
- 2－1 2020 年度人事案件 審議対象者リスト・・・・・・・・・・
- 2－2 2020 年度人事案件 審議資料（回収）・・・・・・・・・・
- 3－1 2020 年度公募型共同研究「ROIS-DS-JOINT」審査要項・・・・・・・・
- 3－2 2020 年度公募型共同研究「ROIS-DS-JOINT」募集要項・・・・・・・・
- 3－3 「ROIS-DS-JOINT」における採否案・予算額等の作成について（案）・・・・
- 3－4 2020 年度「ROIS-DS-JOINT」採点一覧表（第 1 回目審査）・・・・・・・・